

日本声楽発声学会

学会通信

第18号

会員の皆さまへ

理事長 米山文明

初夏の例会も終わり、梅雨の季節に入っておりますが、会員の皆様にはご健勝にご活躍のこととお慶び申し上げます。

地球の気象も世界の人間社会も異変と混乱がつづいております。

本学会も順調な経緯をたどってございましたら、今頃は本欄の拙稿もなくなっていたはずですが、ご存知の通り、最重要課題でありました会則改訂が4月の臨時総会で継続審議になってしまったため、私が身を引くタイミングも失ってしまいました。

ご協力くださった多くの会員の皆様には、たいへん申し訳ありませんでした。可及的速やかに懸案事項を決着して、新世代の優秀な人材に新しい本学会の将来を開拓、発展してほしいと念じております。

今期は、執行部にも新進気鋭の人材に積極的な活動をしていただく場をつくり、新鮮な活動方針を進めております。学会本来の歌唱法の発展はもちろんですが、発声の基礎研究、歌唱者の育成方法などのほか、今回は特に事務局業務の整備、充実に新時代に則して思い切った改革を考えております。

さらに例会の方式、内容、研修会のあり方など、研究テーマの継続性のある長期計画と、斬新な事例に速やかな対応のできる短期即決方法

をうまく組み合わせていきたいと考えております。

4月の臨時総会の前後に事務局に寄せられた会員の声の中に、「執行部の運営事項に会員の具体的な参加を導入してほしい」というご意見がありました。以前から、会員のご意見を理事会の討議に反映させるべく努力してきたつもりですが、多くの方々からの情報が届きにくいところもありました。

今後さらに会員の皆様のご満足がいただけるよう努力してまいります。どうぞ、ご遠慮なく本部宛にお申し越してください。

これからの新しい年度もどうぞよろしくお願いたします。会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念して。

新役員就任について

任期満了に伴う理事改選選挙を行い、去る5月30日開催の第46回総会において新役員並びに、新たに名誉会員の方々が承認されました。

(敬称略)

顧問	堀内久美雄	平野実	嶺貞子
相談役	佐藤心乃介	三林輝夫	
理事長	米山文明		
副理事長	佐々木正利	永井和子	
事務局長	川上勝功		
理事	小川昌文	河合孝夫	川村英司
	小林武夫	末芳枝	豊田喜代美
	淡野弓子	丹羽勝海	平松英子
	山田実		
監事	池田京子	清水喜承	田代雅子
名誉会員	飯田忠文	川内澄江	高橋大海
	田中喜雄	宮原卓也	

◇新理事の所信・抱負◇

■佐々木正利

このたび期せずして副理事長の任に就くことになりました。非力ではありますが、全力を傾注して学会の発展に寄与できればと思っております。

よろしく願いいたします。

新しい門出にあたり、二つのことを念頭に、舵取りを担っていきたいと思います。一つは恩師の方々によって創立された声楽発声学会の基本理念を確認しあうこと。今一つは旧態依然とした活動状況を見直し、積極的に新しい施策を導入、グローバル化への対応とともにローカルな面にも焦点をあて目配りを怠らないことです。

つまり、声楽発声、声楽表現を探求する、という目的のために集い、語り合い、行動する全ての人々を支援し、そうした人々のコミュニティとしてお互いを尊重し、高めあう、そういう根本の理念を確かめながら、世界を見据えた活動を展開したい。とくに若手研究者、地方の研究者を擁護育てる姿勢を奨励することで、学会のさらなる成長に貢献したいと祈念しています。

■永井和子

本学会で長年語り継がれ、諸研究の続く分野ですが、最近知人から聞いた話「私の息子（小学生）は背が高く後部席が指定席。ところが前の席に変わりたいと言い出した。参観日に行ってその理由がわかった。先生の声が小さくて後部席では聴こえない」。これは由々しき問題です。

教師一個人の問題としては済まされません。声を仕事とする人は、相手にその意を伝えてこそ成り立つものです。音楽教師、歌声だけの問題にとどまらず、全国ネットで開かれた当学会が「声と発音」を発見するための広義な場として、意義のある学会であることを願い、企画や提案をしていきたい。

■川上勝功

私は、これまで臨時総会等でのゴタゴタの責任を取り、事務局長を辞任するつもりでおりました。しかし、事務局のあり方について、多くの問題をやり残したままになっておりましたので、今回は多くのスタッフの参加を得まして、皆様方のご協力のもと、事務局を組織的に改革してまいりたいと考えるにいたりました。いささか時間がかかるかもしれませんが、新しい時

代に相応しい「学会」へと勇猛邁進してまいりたいと思う次第です。会員の皆様の絶大なるご支援をお願い申し上げます。

■小川昌文

教育部会担当理事の小川昌文です。世の中が大きく変革しつつある現在、わが声楽発声学会も新たな展開を迎えようとしています。本学会がパワーアップするためには、高いレベルにおいて「理論」と「実践」、「専門教育」と「学校教育」の統合が必要と考えております。その具体化に向けて微力ではありますが、精一杯務めさせていただきますのでよろしく願いいたします。

■河合孝夫

会員目線での学会運営の観点から、まず会員の意見を理事会に反映することが目標です。学会発足から約半世紀。発足当時に比べ、より幅広い年代と様々な職種の会員がいる現在、果たして会員の声を反映した学会になっているのでしょうか。

会員の意見を理事会に反映させるため、米山理事長の許可を得て、会員の皆さんと理事会のパイプ役をします。たとえば、例会のとき昼食を皆さんとご一緒しながら気楽に伺ったご意見を理事会に報告するようなことから始めています。折にふれ皆さんの忌憚のないご意見をお聞かせください。

■川村英司

新理事会が発足しましたが、残念なことに若い世代の理事が少ないのです。この際、私は声楽発声学会を声楽はもちろん、声に関係するすべての分野の人々を統合した大きな団体にするべく努力したいと思います。細かい問題を云々するのではなく、将来の日本の声楽界の発展を考えて、小異を捨てて大同につかなければ、この国の声楽界の将来はないと危惧しているのは私だけでしょうか。

最後の任期は、次を背負う世代がより学会を発展させやすく運営できるための下地を作りたいと思います。そのためには、会員相互の意見交換が必要ですし、忌憚のない意見を戦わすことも重要です。会の発展を考えての建設的な議論を戦わせるよい雰囲気になることを期待します。

■小林武夫

学会誌が今号からリニューアルしました。会員の皆様の印象はいかがでしょう。研究論文は学会誌の中核で、もちろん大切です。

学会誌を編集する者として、本誌の末尾に会員の声もぜひ載せたいのです。学会に対する提言、苦言、また掲載論文への疑義、反論などで誌面が活性化することを期待します。

ツイッターが流行する近頃、思いを短く寄せていただく方法もあり、それらも含め、会員の声として取り上げたいと思います。

■末 芳枝

真なる芸術を求めて、発声法、表現研究を会員の皆さまと共に歩みを進められるよう企画したい。

予算の許される限り、内外の優れた声楽家、芸術家をお招きし、歌っていただき、演奏を伴った芸術論、講座を開設したい。

会員の皆さまにお気軽に連絡、お声をかけていただき、ご希望をお聞かせいただきたいと思います。

■淡野弓子

演奏畑でのみ生きてまいりましたふつつかな私が、このたび理事長推薦理事という身に余るご指名をいただき、理事として働かせていただくことになりました。

「声楽発声」というきわめてデリケートな、しかも究極的には個々人でしか解決し得ないテーマを、学会という開かれた場で多くの方々と共に考えていけることの素晴らしさに魅かれると同時に、人は一人二人と群れ集まったときに思いがけない方向へ自分の心が動かされ、いわゆる潮流とか流行という波に吞まれていくことも忘れてはならないと思っております。

今回いただきました機会を自らの新生を促す時と捉え、新鮮な耳、柔軟な心を取り戻し、真摯に事に当たりたいと願っております。ご叱正を仰ぎつつ。

■豊田喜代美

このたび、選挙で理事に選んでいただき身の引き締まる思いです。今後は理事として、会員の皆さまへのよい研修の場の提供に、微力ながら全力をあげて努めさせていただきたいと思います。その際、私は演奏家として自らの歌唱技術向上に努めることを基盤に、知識科学博士としての研究活動、また音楽大学声楽専攻教授・他の教育活動から「歌う身体機能は誰もが持っている（フースラー）」を信念に、本学会が声楽発声を学び、歌う喜びを多くの皆さまと分かちあう場として、さらなる充実を願いつつ務めます。どうぞよろしく願いいたします。

■丹羽勝海

日本声楽発声学会理事長を12年間務め、その間日本学術会議の登録団体として認められ、現在に至っております。昨今、各音楽大学や音楽学部においても、大学院後期博士課程が設立され、芸術分野での博士号が授与されています。また、教員の昇格に関しても、演奏業績とともに論文等の研究業績が問われます。その意味でも、会員各位にとって、本学会が研究発表・演奏発表の場となりますように。また、ますます国際化する芸術と学問の世界で活躍されることを期待しております。

■平松英子

私は日々学生たちと接しておりますが、いくら表現意欲があふれていても、発声そのものが未熟であることによって十分な表現ができない、という場面に多く遭遇します。それは彼ら自身のせいというよりも、指導者側の責任の方が重いと言わざるを得ません。音楽の解釈や表現方法にばかり目が行きがちな教育の現場において、発声の重要性を切実に感じております。会員皆様のご助言、ご指導を賜わりながら務めたいと思います。どうぞよろしく願い申し上げます。

■山田 実

新設された国際部の責任者として、海外の声楽発声研究諸機関との連絡を密にし、海外の優秀な研究発表の紹介、最新の情報提供に努め、日本国

内の発声学発展に貢献したい。優秀な人材の発掘育成も学会の責務と考え、現在、ソウル、上海など、12国、17市で実施されている国際イタリア・オペラ第1次予選を是非日本でも実現できるよう働きかけ、従来のオーストリア、ドイツに加え、パリ国立音楽院、ジュリアード・スクール、英国国立音楽院などへの留学準備、フィラデルフィアにある授業料無料のオペラ歌手養成機関、アカデミー・オヴ・ヴォーカル・アーツへの紹介、斡旋など、サポートを推進したい。

[Q&A]

昨年の例会で行われた「ディベート」に関連した記事が某日刊紙に載っていたので紹介します。

「ディベート」と「ダイアログ」の違いについて。(鷺田清一大阪大学総長、哲学)

劇作家平田オリザ氏は、次のように定義した。「ディベート」(論争)は、話し合いの前後で、自分の考えが変わっていたら負け(終始一貫していない)といけない。

「ダイアログ」(対話)は、逆に話し合いの中で変わっていかなければ、やる意味がない。話せば話すほど相手との違いが見えてくるところに意義があり、結論が見つからずとも一向かまわれない。

会員諸氏は、この二つの対話方式の違いをどう使い分けますか? (F. Y.)

[会員だより]

●淡野弓子 演奏会

日時: 2010. 9. 17 (金) 19:00 開演

会場: 東京カテドラル聖マリア教会

内容: ハイน์リヒ・シュッツ 〈白鳥の歌〉
詩編第 119 篇 (全) ドイツ語マフィカ
詩編第 100 篇

演奏: 真木喜規・淡野太郎・浦野智行 他
ハイน์リヒ・シュッツ合唱団東京

指揮: 淡野弓子

全席自由 4000 円 2500 円 (学生)

連絡先 TEL/FAX.03-3998-8162

●豊田喜代美 CD

- (1) 貴志康一没後 50 周年記念コンサート交響曲「仏陀」、7つの日本歌曲より「赤いかんざし」「かごかき」他。ビクター、豊田喜代美(S)/東京都交響楽団/小松一彦(指揮)
- (2) 朝比奈隆=新日本フィル ワーグナー「ニーベルングの指輪」(全曲 12CD)フォンテック、豊田喜代美(ジークフリード/ブリュンヒルデ)
- (3) ベートーヴェン交響曲全集フォンテック、朝比奈隆(指揮)、交響曲第九番、豊田喜代美(S)、秋葉京子(A)、林誠(T)、高橋啓三(B)

●米山文明

◇最近「呼吸と発声」に関わる地方行脚に追われています。横浜、町田、前橋、浜松、渋谷など。

◇野村萬斎(狂言師)の声の秘密を探る番組(ザ・スター)に出演。

・NHK.BS・ハイビジョン: 6/4、BS・2: 6/5
(20:00~22:00)放映。

[お知らせ]

第 92 回 (11 月) 例会 11 月 28 日 (日)

於東京芸大音楽学部

特別講演「言語と声、そしてハーモニー」

講師 松原千振先生 (東混常任指揮者)

現役声楽家の演奏とお話 松田奈緒美先生

[事務局だより]

◎学会誌、学会通信への投稿をお待ちしております。演奏会、出版、CD 制作ほか近況等を事務局までお寄せください。 事務局長 川上勝功

学会通信 第 18 号

平成 22 年 7 月 5 日

日本声楽発声学会事務局

〒275-0005 習志野市新栄 2-9-2 西村暁子方

TEL/FAX. 047-479-5701